

1. 内外政

- ・9日、憲法裁判所は、連合協定の批准は、モルドバ独立宣言に記載されている同国の欧州各国とあらゆる分野における協力への志向にもとづいたものであり、合憲であるとの判決を公表。
- ・9日、キシナウにおいて、ウクライナ・モルドバ国境管理支援欧州使節団(EUBAM)の調整会議が開催。モルドバ側代表は、EUBAMをEUプロジェクトの中でも優れた成功例である旨指摘し、マンダートの延長を期待する旨発言。
- ・10日、レアンカ首相は、ミンスクにおいて開催されたCIS首脳会談に参加し、モルドバが各加盟国との二国間関係の発展を期待しており、モルドバ・EU間の自由貿易圏創設はCIS加盟国との関係を損なわない旨発言。
- ・10日、ゲルマン外務・欧州統合相は、モルドバ訪問中のコ

ルレチャン・ルーマニア外相と会談、両国の協力関係につき議論。

- ・10日、カンドゥ副首相兼経済相は、議会選挙で例え共産党や社会党が政権入りしようとも、モルドバの欧州統合路線が変わることはない旨発言。

2. 経済

- ・9日、世銀は2013年のモルドバの出稼ぎ労働者による本国への送金のGDPに占める割合が25%を記録した、このGDP比は、タジキスタン(42%)、キルギス(32%)、ネパール(29%)に次いで、世界第4位であった旨発表。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)